

雲林寺報

第14号

2013年春号

吾妻郡長野原町73

大洞山 雲林寺

TEL0279-82-2201



1月2日 新年祈禱会

天上天下唯我独尊

四月八日、ルンビニの花園でお生まれになったお釈迦様はそのまま四方に七歩歩いて、右手を上、左手を下に伸ばして天上天下唯我独尊 天が上、天が下、我こそ最も尊きものなり」とさわやかに宣言されました。

人間がこの世に生まれいずることは、いや、人間に限らず、動物であろうと植物であろうと、生まれいずるといふことは、万物一体の生命の根源が縁によって男となり、女となり、花は紅、柳は緑にと千様万能の姿となつてあらわれ出ることであり、従つて、生まれいずるときはオギャーという産声はおろそかなものでもありません。それはあたかも夏の夜空を美しく彩る花火が、本体から飛び出す瞬間の轟音にも似たものではないでしょうか？

天上天下唯我独尊の一語は正に仏陀釈尊の第一声としてまことにふさわしい大獅子吼であります。

四月八日になると各寺では花御堂を飾り、お誕生仏に甘茶を注ぎかけます。これはお釈迦様がお生まれになった時、天から美しい音楽と共に無数の花びらが舞い落ち、龍王が口から甘露の雨を注いで産湯にしたという故事によるものであります。

誕生仏に甘茶をかけ、お釈迦様誕生を祝うとともに私もお互いの心にこびりついている欲垢煩惱の汚れを洗い清め、持つて生まれた無垢清浄の心の光をみがかき出し、心に美しい花を咲かせたいものです。

雲林寺住職 轟 紀久

大本山永平寺（ご先祖様の供養、参拝）と錦秋の北陸路の旅

檀信徒の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。恒例となっております「曹洞宗第六教区護持会」主催の参拝親睦旅行を1泊2日の日程で計画致しました。檀信徒の皆様の親睦を深めたくお誘い合わせの上、ご参加下さいますようご案内を申し上げます。

日程：平成25年10月30日（水）～31日（木）

ご旅行費：33,000円
（法要恩金、参拝料、朝食1回、昼食2回、夕食1回、記念写真代金）

募集人員：100名

申込方法：8月31日迄に各寺院に10000円を添えてお申込み下さい。

企画：曹洞宗第六教区護持会

旅行主催：東武トラベル

主な行程

10/30

6:30 12:20~14:00 14:10~15:00 15:25~16:10 16:50
長野原～ゆのくにの森～那谷（なた）寺～北前船の里資料館～あわら温泉
屋食 真言宗別格本山 まつや千千泊

10/31

8:30 9:30 13:15 15:05~15:30 20:00
あわら温泉～大本山永平寺……門前～ます寿司工房～長野原
ご先祖様の供養、拝観 屋食

※宿泊ホテルのまつや千千（せんせん）はプロが選ぶ日本の旅館100選に13年連続入選中。源泉大浴場・露天風呂「千のこぼれ湯」は北陸最大級のスケールです。

一月〜三月の行事等、御報告

昨年十二月三十一日午後十一時四分より雲林寺鐘樓堂にて除夜の鐘を撞きました。一〇八回、参拝に来られた方に代わる代わる鐘を撞いて頂き、新年を迎えました。中には受験を控えている学生様や、就職活動中の方もあり、熱心に祈願されておりました。

一月二日、雲林寺総代・世話人にお集まり頂き、新年祈禱会が行われました。祈禱後新年会となり、年間行事等説明がなされました。

一月十二日午前一〇時より長野中央小スポーツ少年団の坐禅会がございました。野球部、サッカー部、水泳部、保護者の皆様に参加していただきました。坐禅会終了後は、境内で餅つき大会を致しました。



1月12日 坐禅会



12月31日〜1日 除夜の鐘



2月3日 節分会



1月12日 餅つき大会

二月三日は節分会でした。二月一日より長野県在住の世話人さんにより事前準備をして頂き、当日は全地区世話人さんに会の進行をご協力頂きました。又、多くの景品を御提供頂きありがとうございました。(内容は三ページ記載)

二月二十二日は群馬県第六教区護持会新年会が四万温泉花の坊で開催され、雲林寺より四名の総代・世話人さんが参加されました。

秋に企画される第六教区主催の団体参拝旅行は、大本山永平寺と北陸の旅に決定致しました。(内容は一ページ記載)

曹洞宗のお仏壇のまつり方

—お仏壇の中心はお釈迦さまです—

お仏壇のおまつりの仕方について、まず、最も大切なことは、お仏壇の中心はお釈迦さまであることを、はっきりと心にとめることです。お仏壇の上段中央に、木彫りや鑄造のお釈迦さまのお像をまつります。

—お位牌は上段の左右に—

ご先祖様のお位牌は、お釈迦さまの左右におまつりし、古いお位牌は向かって右に、新しいお位牌は左におまつります。親類、縁者のお位牌等がある場合には、この順におまつります。お位牌が多くなり、お仏壇が狭くなった場合は、「繰り出し位牌」や「合同牌」にしたり、「〇〇家先祖代々」にまとめることができますので、ご相談ください。

—お供え物の位置は中段です—

お供え物は、本尊さまやご先祖さま、故人が、「いますごとく」お供えします。お供え物は、五つのお供えが基本です。香り(線香、お香)、花、灯明、水、飲食(お霊膳、果物、菓子、嗜好品など)の五つです。ご飯に限らず、皆さんが召しあがる食事を、お供えしてください。そして、お供えた物は無駄にしないように、いただけるものは皆で分け合ってください。また、いただきものをした時は、必ず一度、お仏壇にお供えするようにいたしましょう。

お茶やお水をお供えする器のことを、茶湯器(ちゃとうき)といい、中段の中央にお供えします。茶湯器が一つの場合、ご飯(お仏餈・読み:おぶつしょう)は、茶湯器の右横にお供えします。茶湯器が二つの場合は、真ん中がお仏餈です。お菓子や果物は、高坏(たかつき)に盛りつけて、茶湯器の左右(逆の場合もある)にお供えします。

なお、お線香は煙をお供えするものではありません。よい香りをお供えするのです。精霊簿(過去帳)は、見やすい位置に置くようにします。また、毎朝めくって、その日のページになるようにしてください。

—下段には三具足を置きます—

下段には、向かって左側より花立て、香炉、ロウソク立ての三具足(さんぐそく)を置きます。香炉にも表と裏があります。三本足の場合には、手前に一本の足がくるようにします。

—おまいりの必要品は下段に整えます—

日常、おまいりするために必要なリン(カネ)やお経本、数珠等は下段、木魚は右に、リンを左に置きます。リンだけの場合は、右に置いてください。



標準的なお仏壇のおまつりの仕方について紹介しましたが、これはあくまでも一例に過ぎません。各ご家庭で仏壇の大きさも違うと思いますので臨機応変におまつり致しましょう。尚、分からないことはご遠慮なくご相談ください。

第二十八世 大慈提三大和尚 小祥忌(一周忌)のご報告

二月二十三日、前任職第二十八世大慈提三大和尚の一周忌をおかけ様をもちまして滞りなく済ませることができました。大和尚は昨年二月二十六日、遷化(せんげ)し、同年六月二十三日、檀信徒葬という形で本葬儀が行われました。今回の一周忌も本葬儀同様、導師に当山の本寺である安中市の長源寺住職、新井孝春老師にお願いし、親族、総代様、世話人様、第六教区(当寺所属地区)寺院、親戚寺院で執り行いました。尚、設齋は草津温泉ホテル櫻井で行われました。



行道(ぎょうどう): 列を作つて読経しながら本堂の周りを右に回って供養礼拝致しました。 設齋(せつさい): お清めの席)では生前の大和尚を偲び思い出を語り合いました。

多施食会のお知らせ

八月十四日は当山の多施食会です。年回に当たる施主様にはお葉書にてご連絡させて頂き、塔婆を御用意しております。尚、元祖代々のお塔婆は年回に関わらずご用意できますので必要な方はご連絡頂ければ幸いです。



感謝録

2月3日の節分会では沢山のご協力を頂きありがとうございました。雲林寺護持会一同、感謝申し上げます。

- 金壹萬圓 萩原昭朗様
- 長谷川誠様
- 野口敏幸様
- 田村守様
- 山口次夫様
- 櫻井輝久様
- 黒岩元様
- 野口明成様
- 犬塚守人様
- 黒岩保男様
- 割田三男様
- 群北車両様
- 白親光様
- 浅澤建設様
- 吉澤近様
- 宮崎保昭様
- 宮崎正昭様
- 黒岩敏夫様
- 京屋クリーニング店様
- 素都廊様
- キュービット様
- パーラーエンゼル様
- 坂井工業様
- 高橋部品商会様
- 山口幸一様
- 金一阡圓 ひろみ美容室様
- 商品券一万円分 浅間酒造(株)様
- 商品券五千円分 スーパー大津様
- 酒三〇〇ml一〇本 浅間酒造(株)様

- 酒粕三〇〇g五〇袋 浅間観光センター様
- 文具セット一〇個 油屋書店様
- 洗剤ギフトセット一〇点 かくだい小林商店様
- スッキリマスク 髪かざり様
- 電子体温計一〇台 櫻井医院様
- スポーツ用品一〇個 スーツハウス市川様
- スボックスティッシュ一〇個 セブンイレブン
- 菓子一〇箱 長野原大津店様
- 竹カゴ三個 土田稲栄様
- 健康用品 奈良屋様
- B〇Xティッシュ五セット 野口商店
- ワンタッチチューブしほり 長谷川浩一様
- 手袋二〇個 松屋金物店様
- 缶コーヒー三〇個 丸山商店様
- タオル一〇本 村上家様
- 漬酒一升 山口酒店様
- 漬酒二合一〇本 山屋商店様
- 米菓詰め合わせ五箱 黒岩林業様
- ハンドソープ一〇個 篠原(尙)様
- ホッカイロ ぬくもりの家様
- アイスノン 長生病院様
- 中華そば一〇〇個

護持会より

毎年四月に護持会費を各地区担当の世話人さんより集金させて頂いております。雲林寺護持会費の要旨は左記のとおりになります。尚、平成二十四年度の収支は次号八月に記載させて頂きます。

(護持会の要旨)

①建物の護持保存、宗門の賦課金火災保険その他護持運営に必要な経費の支弁は

②会費の内訳は

- 法名：院号 年額三千五百円
- 法名：庵、済、軒号 年額 三千円
- 法名：居士、大姉号 年額二千五百円
- 法名：信士、信女号 年額 二千円

世話人さん紹介

(世話人とは)

まさに字のごとく、お寺の様々な事の世話をやいて頂いている方のことです。お寺はご存じのように、行事があり多くの檀信徒の皆様に参加して頂いておりますが、そういう時のお手伝い、沢山の檀信徒が集まる時の連絡、案内役等、目立たないながらもお寺の活動を支えて頂いております。お寺のことにも詳しく、寺族とも顔なじみというように、お寺を中心としたひとつの輪を支える縁の下の力持ちの存在です。今回も世話人さんをランダムで紹介させて頂きます。①名前②担当地区③趣味④人生で一番嬉しかった事



- ①黒岩範一さん
- ②長野原
- ③農作業、菜園作り
- ④孫が誕生したこと

梅花流たより



和讃紹介

この御和讃は梅花流の基本であり、お唱えする機会も一番多い曲です。また宗派にかかわらず仏教徒として共通する心構えを説いたものです。歌詞の内容は解説をご覧ください。

雲林寺詠讃歌の会では新年を迎え、初観音様に正當する日(二月十八日)に新年会を開き一年の行事がこの日から始まることとなります。毎年この頃になりますと雪が降りほしなやかと心配しますが必ずといっていい程その前後に降るといふのも不思議なものです。お御堂にて長野原造道正観世音菩薩を白息の出るのを感じながら全員でお唱え致します。二月一三日と十四日と伊香保温泉ホテル天坊に於いて一泊研修会が恒例となっており、雲林寺からは一三名が出席し、それぞれのクラスに分かれて研修が行われました。

そしてその成果が実り、三級教範に山崎トシヨ様、山本節子様がみごとに合格され白房になりました。又、初めて教導を受けられたお一人も合格され全員でその喜びを分かち合うことができました。

四月三日大般若会の五日後には釈尊(お釈迦様)の降誕生会があります。梅花講の皆様又、お釈迦様の誕生を共に祝いしたい方、どうぞ寺へ足をお運びください。大歓迎致します。

五月下旬には東北の被災地宮城県にて梅花流全国奉詠大会が予定されおり、雲林寺では十六名が参加致します。又、六月中旬になりますと雲林寺を会場に宗務庁主催の特派師範講習会と続きますので、どうぞ講員の皆様ご健康に留意されひとつ、ひとつの行事を消化していきますようにご協力の程、よろしく御願ひ申し上げます。



1月18日 初観音様
毎年、この日に観音堂で行われます。



2月13日 一泊研修会
副住職が講師の一人として参加致しました。

三宝御和讃

見立 田道 高 作詞
立 藤 藤 作曲

♩=50位 敬虔に明るく

(頭) (衆)

1. こころのやみをてらしませぬ
2. うきよりのなきみにわらへてき
3. さとりのなきみにわらへてき

いともとけの
きよもりの
ちかいはねのみな
ふじりにさたおさするものにはのみな
なむきえぶつととなえよや
なむきえぶつととなえよや

- 三宝御和讃
- (一)心の闇を照らします
いと尊きみ仏の
誓願を冀うものはみな
南無帰依仏と唱えよや
 - (二)憂き世の波を乗り越えて
浄きめぐみにゆく法の
船に棹さすものはみな
南無帰依法と唱えよや
 - (三)悟りの岸にわたるべき
道を伝えしもろの
僧伽に頼るものはみな
南無帰依僧と唱えよや

解説

① 悩みや迷いと言った心の闇を照らし、人として生きる道を明らかにして下さるみほとけの教えを実践しようとする誓願する私たちは、心から「南無帰依仏」とお唱えしましょう。

② 憂いの多い世の中の荒波を乗り越えて、本当の意味での恵まれた生活に導いて下さるみほとけの教えを信じる私たちは、心から「南無帰依法」とお唱えしましょう。

③ 仏さまの暮らしたに近づいたための教えを伝えて下さったお祖師さまがたを尊敬し、その教えを心の拠り所とする私たちは、心から「南無帰依僧」とお唱えしましょう。

編集後記

平成八年春に大本山永平寺に上山した時に古参和尚(先輩修行僧)から「お前は発心(ほっしん)してきたのか?」と問われた事をこの時期になると思い出します。発心とは心を発(おこ)す、と読み、道心(悟りを得ようとして仏道に帰依する)を発すことです。発菩提心(ほつぼだいしん)ともいいます。観經の疏(しよ)に「発菩提心はこれ願、意を起こして趣向するを名づけて発心と為す」楞嚴經(りようこんぎょう)巻六に「まず人を度する者は菩薩の発心なり」とあり、いずれにしても発心(発菩提心)こそは仏教徒にとって最も大事な第一歩で、これなしでは悟りを得ることはできません。檀信徒の皆様もいかなる立場であれ、発心は大事にしたいものです。

副住職 轟 省吾

